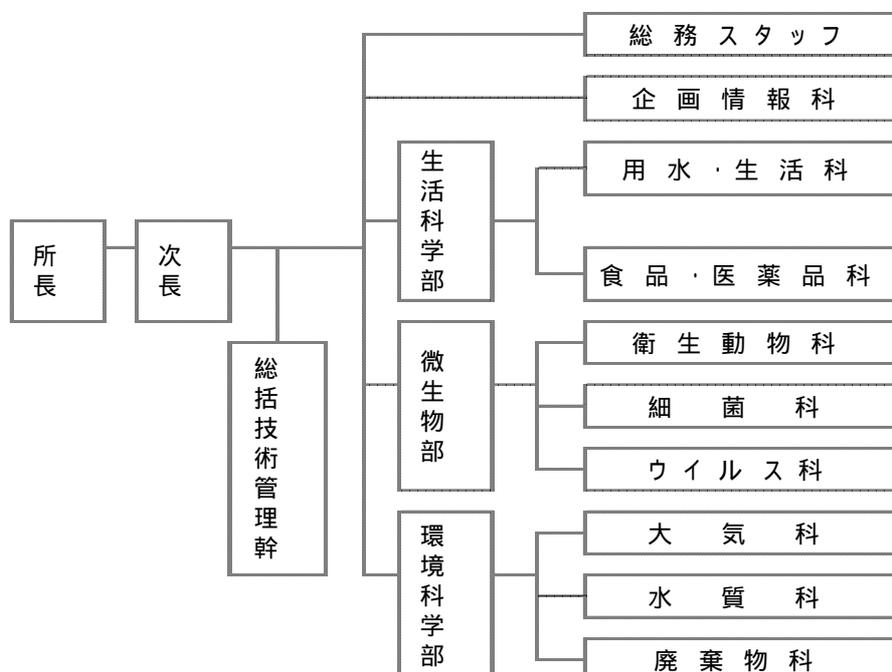


組織と沿革



組織



沿革

- 昭和 24 年 県立医学研究所として、甲府市中央に創設。
- 昭和 35 年 県立衛生研究所に改称。
- 昭和 46 年 甲府市富士見に新築移転。
- 昭和 48 年 衛生検査センターを甲府市中央に創設し、行政検査の一部を分掌。
- 昭和 50 年 県立衛生研究所を県立衛生公害研究所に改称。
- 昭和 59 年 衛生検査センターを甲府市太田町に新築移転し検査機能を強化。
- 昭和 60 年 県立衛生公害研究所を衛生公害研究所に改称。
- 平成 9 年 衛生検査センターを衛生監視指導センターに改称。
- 平成 22 年 衛生公害研究所と衛生監視指導センターを統合し、衛生環境研究所に改称。
旧衛生公害研究所を本所、旧衛生監視指導センターを分所として業務開始。
- 平成 24 年 分所から機器等を本所に移転し、組織及び業務を一本化。

業務報告

企画情報科・総務スタッフ

(1) 講師派遣及び研修の実施状況

月 日	主催者(研修会名)	講師名	講義内容
5月25日	衛生薬務課(第1回監視指導技術研修会)	植松 香星	食中毒検体材料の採取について
6月14日	韮崎市公民館連絡協議会	堀内雅人	放射能、放射線について
6月26日	北巨摩学校保健主事会研修会	小林 浩	放射能の現状と学校生活における関わり
6月26日	大気水質保全課	堀内雅人 日野原裕美	水生生物調査法
6月27日	衛生環境研究所 (第1回感染症研修会)	植松 香星	集団下痢症事例における対応について
		大沼 正行	ゆうパックにより検体を送付する場合について
		柳本 恵太	富山県で発生した腸管出血性大腸菌による食中毒の特徴について
7月17日	山梨県立男女共同参画推進センター びゅあ峡南	小林 浩	食品の放射性物質検査
8月8日	山梨県社会福祉協議会	小泉 美樹	食品の衛生基準(農薬・放射線)について
8月9日	山梨県社会福祉協議会	風間 大吾	食品の衛生基準(農薬・放射線)について
8月20日	国際ロータリークラブ	吉澤一家	富士五湖の水環境と保全
8月22日	衛生薬務課(第2回監視指導技術研修会)	矢崎 礼子 高村 知成	食品検査について
10月27日	山梨県立大学	吉澤一家	富士北麓の水環境の変遷
11月19日 11月20日 11月26日 11月27日	信州大学	吉澤一家	環境保全・環境デザイン学
11月21日	峡南保健所 衛生課	小林 浩	山梨県の温泉泉質とレジオネラ対策
11月29日	山梨県環境計量協会	小林 浩	山梨県の放射能レベルとその特徴
12月12日	衛生環境研究所 (第2回感染症研修会)	大沼 正行	2012/2013 インフルエンザウイルス状況と検体採取について
		柳本 恵太	県内公衆浴場等より分離されたレジオネラ属菌の遺伝子解析について
		高橋 史恵	アニサキスについて
1月8日	山梨大学	佐々木裕也 吉澤一家	環境測定法
1月16日 1月17日 1月18日	大気水質保全課	佐々木裕也 大橋泰浩	騒音測定法
2月19日	工業技術センター	小林 浩	山梨県における食品の放射能レベルについて
3月5日	中道地区保健計画推進協議会	小林 浩	食品・農産物と放射能

(2) 委員会、協議会ならびに業務関連学会の委員など

委嘱団体等の名称	役員等の名称	職員氏名	任期その他
日本水環境学会 関東支部	幹事	小林 浩	平成24年度
日本薬学会	水質専門部会委員会	小林 浩	平成24年度
地衛研全国協議会 関東甲信静支部	ウイルス研究部会委員	大沼正行	平成24年度
地衛研全国協議会 関東甲信静支部	細菌研究部会委員	植松香星	平成24年度
地衛研全国協議会 関東甲信静支部	公衆衛生情報部会委員	佐久間たかね	平成24年度
甲府市環境センター	環境委員	吉澤 一家	平成24年度
(社)山梨県浄化槽協会	検査業務運営委員	吉澤 一家	平成24年度

(3) 来所者

月 日	目 的	来 所 者
6月19日	職場体験学習	忍野中学校生徒(4名)
7月7日	研究所見学	国際ロータリークラブ(20名)
8月27日	インターンシップ体験	山梨大学学生(1名)
1月8日	NOx測定及び研究所見学	山梨大学学生(7名)

(4) 刊行物

年 月	名 称	概 要
24年8月	山梨県衛生環境研究所 年報 第55号	研究報告、業務報告、資料、学会発表等
24年8月～24年11月	やまなし衛環研だより 第80～81号	当所ホームページを参照

ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>**(5) 所内の技術研修**

月 日	発 表 者	内 容
4月25日	大沼 正行	ゆうパックにより検体を送付する方法について
7月25日	吉澤 一家	生物多様性と外来種問題について
11月28日	高村 知成	県外異業種交流研修の報告
12月26日	風間 大吾	食品中の残留農薬一斉分析法の妥当性評価
	小田切 幸次	山梨県における飲用水中の自然放射性核種と水質の地域的特徴
1月30日	松本 愛美	県内水道水の無機物質濃度の状況とその特徴
	三橋 加世子	麻しん疑い症例からのウイルス検出状況

(6) 成果発表会

開催日	平成25年3月1日	
場所	県立図書館	
発表内容	口頭発表およびポスター発表	
	発表者	内容
口頭発表	小泉 美樹	山梨県における食品中の放射性物質濃度状況
	大沼 正行	県内のノロウイルスの流行状況とその排泄期間
	柳本 恵太	2012年に山梨県内で発生したウエルシュ菌食中毒4事例
	堀内 雅人	山梨県における外来底生生物の調査
	佐々木 裕也	家屋内外の音響レベル差の実態把握調査
ポスター発表	小泉 美樹	日常食における無機物摂取量調査
	風間 大吾	ぶどうにおける残留農薬試験法の妥当性評価
	松本 愛美	県内水道水における導電率と無機物濃度の相関性と地域的特徴
	小田切 幸次	水道水・河川水中の自然放射性核種の特徴
	高橋 史恵	甲府市および周辺での蚊類の生息調査
	矢崎 英夫	富士五湖におけるTOC(全有機炭素)経月変化調査について
	長谷川 裕弥	富士五湖の水質環境の変化
	辻 敬太郎	大気中の微小粒子(PM2.5)について

(7) 平成24年度研究課題評価

本県では試験研究機能の向上と説明責任の確保を目的に、外部の専門家による課題評価委員会を設置し、調査研究課題に対する評価を行っている。平成24年度は評価委員会を2回開催し「事前評価」と「事後評価」を行った。

場 所 衛生環境研究所4階研修室
出席者 課題評価委員 4名
評価内容 平成23年度に終了した研究課題
(事後評価4題)

1 評価委員会の開催**【第1回課題評価委員会】**

開催日時 平成24年6月6日(木)
午後1時30分~午後4時
場 所 衛生環境研究所4階研修室
出席者 課題評価委員 5名
評価内容 平成24年度から開始する研究課題
(事前評価3題)

【第2回課題評価委員会】

開催日時 平成24年9月19日(木)
午後1時30分~午後4時

2 課題評価委員

副委員長 風間ふたば：山梨大学大学院
医学工学総合研究部 教授
高山 一郎：山梨県厚生連健康管理センター
医師
委員長 平山 公明：山梨大学大学院
医学工学総合研究部 教授
山縣然太郎：山梨大学大学院
医学工学総合研究部 教授
横森 洋一：サントネージュワイン(株)
品質保証部長

3 評価方法

課題評価は「各評価内容について5段階(5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的見直しを要す, 1:全面的見直しを要す)で評価後, 総合評価しコメントを付す」ことになっている。

- 事前評価内容
- 1 調査研究目的の妥当性
 - 2 厚生・環境科学における学術的意義
 - 3 目的達成のための手法, 計画, 体制
 - 4 衛生行政・環境行政への寄与
 - 5 県民, 社会的ニーズへの対応

- 事後評価内容
- 1 調査研究の目的・目標の達成度
 - 2 成果の学術的意義
 - 3 成果の今後への発展性
 - 4 行政施策への貢献度, 活用性
 - 5 県民, 社会的ニーズへの波及効果

4 評価結果

【第1回課題評価委員会(事前評価)】

対象となった3課題は、2題が「4:良好」、1題が「3:概ね良好」との総合評価であった(表1)。

【第2回課題評価委員会評価(事後評価)】

対象となった4題は、4題とも「4:良好」との総合評価であった(表2)。
(評価対象課題の概要は当所ホームページをご覧ください。)

表1 第1回課題評価委員会評価結果(事前評価)

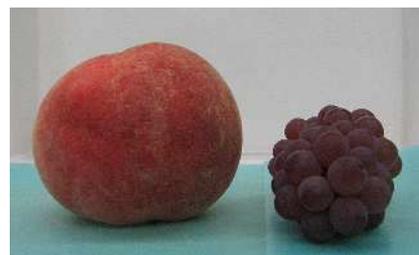
課 題	食品中の放射性物質影響調査
総合評価点	4
総合評価コメント	県民も注目している調査であり、意義は大きい。数値が得られた時は、その意味を県民にどう伝えるかも、検討してほしい。 食品の放射性物質濃度が今までいくらであり震災の影響での変化はどれほどか県民としては知りたいところです。影響がないバックグラウンドの調査が必要であったと感じる。出来事が起こる前の状況も知りたいという項目は他にもあるかもしれない。頻度は小さくても、調査をしておくことが、将来、意味を持つ調査項目は他にもないか研究所として考えることを希望する。
所の対応	調査で得られたデータを蓄積し分析したうえで、その結果について県民へどう伝えていくのかは、今後の課題であり、関係機関と連携し情報提供の方法等について検討していきたい。県民の食の安全や健康につながる基礎研究にも積極的に取り組んでいきたい。
課 題	ロタウイルスが原因となって発生した感染症事例の遺伝子解析
総合評価点	4
総合評価コメント	ロタウイルスの株の解析を行うことの、学術的意義及び健康管理上の基本的な意義を認める。株の解析結果が得られることと県民の健康向上との接点が、県民的視点で説明できるとよい。
所の対応	遺伝子の解析結果が県民の健康向上に活用できるよう検討していきたい。 また、わかりやすい情報提供に努めていきたい。
課 題	県内河川水中の重金属形態分析
総合評価点	3
総合評価コメント	基本的な調査であり、より詳細な分析を行うことが、新たな知見につながることを期待する。詳細な分析を加えることの意味が県民の目線でも理解できるような説明がのぞまれる。
所の対応	詳細な分析を行い、得られた研究結果について、県民が理解できるよう情報提供の方法について検討していきたい。

表 2 第 2 回課題評価委員会評価結果（事後評価）

課 題	山梨県内に流通する食品中の無機物実態調査
総合評価点	4
総合評価コメント	食品中の無機物の実態調査により、摂取量の動向の興味深い結果が示されている。サンプリングに対しての配慮も必要だと感じた。
課 題	甲府市およびその周辺地域での蚊類の生息調査
総合評価点	4
総合評価コメント	甲府市での生息状況の実態を示した意義ある研究です。危機管理等への応用につながることを期待する。 サンプリングに対する考え方も整理しておく必要があると感じた。
課 題	山梨県における外来底生生物調査
総合評価点	4
総合評価コメント	山梨県での外来底生生物の生息を確認したことは大きな成果である。 環境への影響の注視や、環境教育への応用の可能性にも期待する。
課 題	家屋内外の音響レベル差の実態把握調査
総合評価点	4
総合評価コメント	騒音の遮蔽効果と実証的に調べた興味ある研究である。 サンプリングへの配慮や目標をより明確に設定した取り組みも必要だと感じた。

生活科学部

試験検査 実績



科名	区 分	小 区 分	行政試験		依頼試験		合 計	
			検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
用 水 ・ 生 活 科	飲用水・用水等の試験	水道水試験	40	2,000			40	2,000
		水道水試験(項目:農薬)	50	1,608			50	1,608
		一般飲料水試験	0	0			0	0
		用水試験	1	16			1	16
		浴槽水検査	0	0			0	0
		放射能	172	516			172	516
		その他	4	60			4	60
	家庭用品試験	家庭用品試験	69	69			69	69
	温泉分析	温泉分析	21	294	1	36	22	330
	科 計			357	4,563	1	36	358
食 品 ・ 医 薬 品 科	食品等試験	残留農薬試験	151	28,294			151	28,294
		食品等の理化学試験	520	1,645			520	1,645
		放射能	795	1,590			795	1,590
		その他	2	13			2	13
	医薬品試験	医薬品等の試験	2	7			2	7
科 計			1,470	31,549			1,470	31,549
部 計			1,827	36,112	1	36	1,828	36,148

(1) 用 水 ・ 生 活 科

水道水の品質試験

福祉保健部衛生業務課が策定した平成 24 年度水道水収去検査計画に基づき、保健所が収去した簡易水道 28 検体、上水道 12 検体計 40 検体について、水質基準項目等の検査を行った。すべての検体で水質基準に適合していた。

また、福祉保健部衛生業務課が策定した平成 24 年度水質管理計画に基づき、保健所が採水した県内の水道水源の 24 定点(6月)及び 26 定点(9月)について、水質管

理目標設定項目の農薬類の検査を行った。水質管理目標設定項目の農薬類はすべての定点で不検出だった。

水道水中の放射性物質検査

福島第一原子力発電所事故に関連し、福祉保健部衛生業務課が策定した平成 24 年度水道水の放射性物質検査計画に基づき、市町村が採水した県内 86 箇所、延べ 172 検体の水道水中の放射性物質試験を実施した。対象放射性核種は、Cs - 134、Cs - 137 の 2 核種である。いずれの検体からも放射性物質は検出されなかった。

水道水外部精度管理調査

厚生労働省が実施した外部精度管理調査に参加した。平成 24 年度の対象物質はヒ素及びその化合物とテトラクロロエチレンであり、結果は良好であった。

温泉の定時・定点調査

温泉資源の保護および有効利用のための基礎資料を蓄積するために、既存温泉の定時・定点調査を昭和 60 年度から行ってきた。平成 24 年度も森林環境部大気水質保全課と共同で、中北および峡東林務環境事務所管内の 21 定点について、検水採取して主要成分を分析した。

家庭用品

福祉保健部衛生薬務課が試買を行った衣類 69 件についてホルムアルデヒドの検査を行った。すべての検体において基準値を上回るホルムアルデヒドは検出されなかった。

室内空気中の揮発性有機化合物濃度調査

県内 5 か所の家屋の室内空気中の有機化合物の濃度を調査した。同一家屋について、夏季及び冬季に室内 2 箇所、室外 1 か所の採取を行った。採取した検体は国立医薬品食品衛生研究所に送り分析された。

保健所依頼による水質検査

小規模水道 2 検体および給水栓水 2 検体（計 4 検体）について水道水質基準項目について検査を行い、水道水質基準に適合していた。また、「用水試験」として井戸水利用施設の 1 検体について鉄、マンガン等の水質試験を行なった。

(2) 食品・医薬品科

収去食品検査

福祉保健部衛生薬務課が策定した平成 24 年度食品衛生監視指導計画に基づき収去された食品等の検査を行った。食品添加物等については、520 件、1645 項目の検査を行ったが、規格基準に違反していたものはなかった。また残留農薬については、国産の農産物（果実・野菜等）93 件（県内産 75 件、県外産 18 件）と輸入食品 33 件（農産物 23 件、冷凍食品 10 件）について概ね 219 項目の農薬を検査した。すべての検体が残留基準以下であった。（資料 表 1-1、1-2、1-3）

畜水産食品中の残留有害物質モニタリング検査

平成 24 年度食品衛生監視指導計画に基づき、県内産の

牛肉・豚肉・鶏肉 25 件について、28 種類の農薬を、また細菌検査担当と連携して動物用医薬品等について 30 件の検査を行ったが、すべての検体が残留基準以下であった。

農産物等の放射性物質検査

福島第一原子力発電所事故に関連し、県内で生産もしくは流通する食品等、795 試料（収去 100 検体を含む）の放射性物質試験を実施した。対象放射性核種は、I - 131、Cs - 134、Cs - 137 の 3 核種である。一部の野生キノコにおいて Cs の基準値を超過したが、他の試料から基準値を超過した試料は無かった。

その他の食品衛生等に係わる試験

保健所から依頼された苦情食品試験として、ミネラルウォーター 1 件、不良食品試験としてまぐろのたたき 1 件があり成分規格等の試験を行った。

医薬品等の試験

「平成 24 年度医薬品等一斉監視指導」に基づき、保健所が収去した医薬品 1 件について規格等の試験検査を実施した。

また「平成 24 年度医療機器一斉監視指導」に基づき、衛生薬務課が収去した、真空採血管 1 件について、日本工業規格試験（一部）を実施した。

その他、医薬部外品製造販売承認に係る「規格及び試験方法」、「試験成績書」の書類の審査および再審査を染毛剤 2 件について行った。

食品衛生外部精度管理調査

「試験検査等業務管理要領」に基づき、（財）食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理調査に参加した。対象物質は残留農薬のマラチオン、クロロピリホス、フルトラニル、食品添加物の着色料、ソルビン酸、残留動物用医薬品のスルファジミジンであり、結果は概ね良好であった。

微生物部

試験検査 実績



科名	区 分		小 区 分	行政試験	
				検体数	項目数
衛生動物科	寄生虫検査			2	2
	衛生動物検査			32	32
	花粉飛散量調査			130	260
	計			164	294
細菌科	細菌検査		一般細菌検査	35	117
			赤痢菌検査	1	4
			チフス菌検査		
			コレラ菌検査		
			薬剤耐性検査	38	608
			志賀毒素検査	184	920
			結核菌検査		
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	1,320	23,760
			食品検査	1	2
	医薬品等検査		無菌試験	1	4
	浴槽水収去検査		レジオネラ属菌検査	32	128
	食品収去検査		細菌検査	814	2,156
	ふきとり検査		細菌検査	2,198	4,396
計			4,624	32,094	
ウイルス科	流行予測調査		日本脳炎	80	80
			インフルエンザ	176	704
	感染症発生 動向調査	定 点	ウイルス分離検査	327	4,905
		定点以外	ウイルス分離検査	15	225
	集団発生検査		ウイルス分離検査	42	630
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査	1,027	11,297
	計			1,667	17,841
微生物部計				6,455	50,230

(1) 衛生動物科

衛生動物等に関する検査

被害原因虫の同定、駆除法や生態についての問い合わせは 34 件（昆虫類 22 件、ダニ類 2 件、その他 10 件）であった。内訳は食品の異物混入による検査依頼が 7 件（21%）、衛生動物についての同定・相談が 25 件（73%）、寄生虫検査が 2 件（6%）であった。食品の異物混入は 6 件が昆虫類であった。寄生虫検査は、食材（ヒラメ刺身）のクドア検査と胃内視鏡から摘出された寄生虫（アニサキス 型）の同定検査であった。電話による相談は 7 件だった。（資料 表 2-1）

空中花粉調査

甲府市内で実施した今季（2013.1.1～2013.5.5）の総飛散数は、スギ花粉 5402.3 個、ヒノキ花粉 2117.7 個であった。これは昨年（それぞれ 1404.9 個、524.7 個）に比較してスギ花粉、ヒノキ花粉ともに約 4 倍と非常に多い飛散であった。（資料 表 2-2）

(2) 細菌科

感染症等に関する検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づいて三類感染症の届出があった腸管出血性大腸菌感染症患者の疫学調査として、保健所から依頼された 180 検体の検査を行ったところ腸管出血性大腸菌 13 株が分離された。内訳は O26:H11 が 12 株、O103:H2 が 1 株であった。O26:H11 は保育園の集団発生事例であり、O103:H2 は、海外渡航歴のある事例であった。

また、医療機関から送付された菌株（4 件）から腸管出血性大腸菌 2 株が分離された。内訳は O157:H7 が 1 株、O26:H11 が 1 株であった。

分離された菌の志賀毒素検査をしたところ、すべて志賀毒素産生菌であった。

四類感染症の届出があったレジオネラ症患者の疫学調査として、保健所から依頼された喀痰 12 検体について LAMP 法及び分離培養法によりレジオネラ属菌検査を行ったところ、1 検体が LAMP 法陽性、分離培養法で、*L.pneumophila* が分離された。（資料 表 2-3、2-4）

食中毒・集団下痢症等の検査

食中毒疑い及び集団下痢症 70 事例について、保健所から依頼された糞便・吐物（775 検体）、食品（292 検体）、ふきとり（253 検体）の細菌検査を行った。糞便からカンピロバクター属菌（4 株）、黄色ブドウ球菌（39 株）、ウエルシュ菌（101 株）、セレウス菌（1 株）、サルモネラ属菌（1 株）、腸管病原性大腸菌（2 株）が、食品・ふきとり

から黄色ブドウ球菌（3 株）、サルモネラ属菌（1 株）、セレウス菌（1 株）、腸炎ビブリオ（1 株）が分離された。夏季にウエルシュ菌の分離が多かったことが特徴的であった。（資料 表 2-5）

食品・医薬品等に関する検査

保健所から依頼された苦情食品に係わる検査を 1 件（ミネラルウォーター）実施したところ、大腸菌群は陰性であったが、一般生菌数が基準を超えていた。

また「平成 24 年度医療機器一斉監視指導」に基づいて収去された真空採血管 1 検体について無菌試験を実施したが、結果は「基準適合」であった。（資料 表 2-6）

浴槽水のレジオネラ属菌検査

レジオネラ症患者発生に伴う関連調査として、保健所から依頼された浴槽水 32 検体の検査を行った。8 検体からレジオネラ属菌が検出され、13 株が分離された。菌の多くは *L.pneumophila* であった（10 株）が、比較的分離頻度が少ない *L.micdadei* や *L.maceachernii*、*L.jordanis* も各 1 株分離された。（資料 表 2-7）

食品収去検査

「平成 24 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された食品 814 検体について一般生菌数、大腸菌群、*E.coli* 等 2,156 項目の細菌検査を行った。（資料 表 2-8）

ふきとり検査

施設の衛生指導を目的としたまな板、包丁等 2,198 箇所のふきとり検体について、大腸菌群と黄色ブドウ球菌の検査を行ったところ、大腸菌群は 317 力所（14%）、黄色ブドウ球菌は 97 力所（4%）が陽性であった。（資料 表 2-9）

食品衛生外部精度管理

「試験検査等業務管理要綱」に基づき、6 月、7 月、10 月に（財）食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理調査に参加した。模擬食材の一般細菌数測定検査、大腸菌群検査、黄色ブドウ球菌検査を実施し、いずれも良好な結果を得ている。

(3) ウイルス科

日本脳炎流行予測調査

平成 24 年 7 月から 9 月にかけて 8 回にわたり、県内産の生後 6 ヶ月の豚 10 頭ずつ計 80 頭から血清を得た。血

清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を赤血球凝集抑制(HI)反応により測定し、山梨県が日本脳炎ウイルスで汚染されているかどうかを調べた。その結果、9月21日以降、豚のHI抗体の保有がみられ、本県は日本脳炎汚染地区であると推定された。(資料表2-10)

インフルエンザ流行予測感受性調査

2012年7月から9月にかけて採血された山梨県民176名(0-4歳群は0名、5-9、10-14、15-19、20-24、25-29、30-39、40-49、50-59、60歳以上群の8群はすべて22名)から採血した血清を検査材料とした。抗原は、インフルエンザワクチン株3株[A/カリフォルニア/7/2009pdm(A(H1N1)2009)、A/ビクトリア/361/2011(A香港型)、B/ウィスコンシン/1/2010(B型(山形系))]とB/ブリスベン/60/2008(B型(ビクトリア系))を加えた計4株を用い、これらの株に対する血清中の赤血球凝集抑制(HI)抗体価を測定した。2009年に世界的に流行したA(H1N1)2009に対し40歳以上の各年齢群では抗体保有率が27~31%であったが、それ以外の年齢群は40~77%であった。中でも5~19歳の各年齢群は60%以上の抗体保有率を示し、15-19歳群で最も高かった。全体の抗体保有率は49%であり、調査株中最も高かった。A香港型に対する全年齢群の抗体保有率は調査株中2番目に低い19%であった。年齢群別では15~19歳の年齢群および50歳以上の各年齢群は抗体保有率が27~36%であったが、それ以外の年齢群は5~18%であり、特に20-29歳群は5%未満の抗体保有率であった。感染防御のため抗体保有率の低い年齢群にはワクチン接種が必要であると考えられた。2012/13シーズンは4シーズンぶりに山形系統のB型インフルエンザウイルスがワクチン株の1つに選定された。B型(山形系)に対する抗体保有率は、全体では11%と調査株中最も低く、年齢群別では10-14歳群をピークに5~19歳の各年齢群のみが10%以上の抗体保有率(18~27%)であった。それ以外の年齢群は抗体保有率0~9%を示し、中でも50~59歳の年齢群は抗体保有率0%であった。B型(ビクトリア系)に対する抗体保有率は、5-9歳群および15-19歳群、60歳以上の各年齢群で抗体保有率9~14%であったが、それ以外の年齢群は抗体保有率27~50%であった。中でも30~39歳の年齢群は抗体保有率50%以上であった。全年齢群の抗体保有率は調査株中2番目に高い25%であった。(資料表2-11)

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

平成24年度に山梨県内の医療機関で感染症罹患者から採取された検体について、HEp-2、RD-18S、Vero、MDCKおよびCaCo-2細胞を用いたウイルス分離を行った。分離ウイルスについて赤血球凝集抑制(HI)反応、RT-PCR法お

よびリアルタイムPCR法によりウイルス同定を行った。インフルエンザウイルスは2012年9月に検出されたのち10、11月と検出されなかったが、12月に検出株数が増加し2013年1月、2月にピークを示した。昨シーズンと同様に2012/2013シーズンはA香港型が流行の中心となった。麻しん疑い患者から採取された11検体のうち、1検体から麻しんウイルス、4検体から風しんウイルスが分離された。(資料表2-12)

食中毒・集団下痢症のウイルス検査

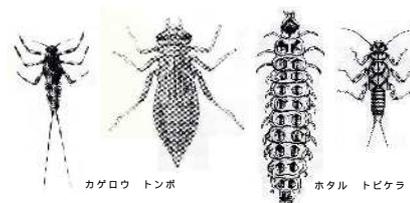
平成24年度に保健所から依頼された食中毒、集団下痢症74事例の検体についてイムノクロマト法、リアルタイムPCR法およびRT-PCR法によるウイルス検出を行った。その結果、58事例からウイルスが検出された。内訳は、ノロウイルスG型単独検出事例が41件と最も多く、次いでノロウイルスG、Gが同時に検出された事例が9件、サポウイルス、ロタウイルス、ノロウイルスG単独検出事例が各2件あった。(資料表2-13)

インフル様疾患(集団かぜ)のウイルス検査

平成24年4月~平成25年1月にインフル様疾患(集団かぜ)が発生した4施設について、各施設5~7名を対象に咽頭ぬぐい液からのウイルス検出を行った。検査を行ったすべての施設からA香港型が検出された。(資料表2-14)

環境科学部

試験検査 実績



科名	区 分	小 区 分	行政試験	
			検体数	項目数
大 気 科	環境大気試験	大気汚染常時監視	4,745	35,040
		有害大気汚染物質	60	540
		アスベスト	30	30
		環境影響	0	0
		騒音常時監視	0	0
		PM2.5	8,686	8,686
	発生源試験	事業場排ガス	25	148
		沿道調査	0	0
		悪 臭	11	11
	環境放射能試験	放射能常時監視	365	365
		環境試料	21	1,694
		降 水	80	80
		精度管理模擬試料	7	1,078
		事故対応	36	1,608
	その他	事故, 苦情等	0	0
受託調査		12	72	
大 気 科 計			14,076	49,198
水 質 科	環境水質試験	公共用水	583	7,497
		富士五湖	270	4,640
		環境影響	1	1
		モニタリング等	29	155
	その他	事故, 苦情等	7	46
		受託調査	3	36
水 質 科 計			893	12,375
廃 棄 物 科	廃棄物試験	焼却灰	10	70
	浄化槽放流水試験	浄化槽	139	424
	土壌汚染	モニタリング	0	0
	排水試験	事業場排水	329	2,356
		一般廃棄物処分場	41	509
		産業廃棄物処理施設	28	397
	その他	事故, 苦情等	8	278
廃棄物科 計			555	4,034
環境科学部 計			15,554	65,607

(1) 大気科

環境大気試験

大気汚染常時監視局 13 局の機器の稼働状況を監視し、オキシダント濃度、窒素酸化物濃度、微小粒子状物質 (PM2.5) 濃度などのデータの確定作業を行った。また測定局の補間を目的に、オキシダント濃度を測定した。

またベンゼンなど有害大気汚染物質 9 物質について延べ 60 検体を測定した。

アスベストは、一般環境の延べ 8 地点で濃度を測定した。

以上の結果は、「やまなしの環境」で公表される。

発生源試験

事業場の煙道延べ 25 施設で排ガス中の窒素酸化物などの検査を行った。結果は「やまなしの環境」で公表される。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、富士吉田市内で粉じんを採取した。調査結果は環境省から公表される。

放射能水準調査

文部科学省の事業としてモニタリングポスト 1 局で放射線を常時監視した。また、月間降下物、土壌や食品、飲用水、大気浮遊粉じんなどの環境試料 21 検体の放射性元素を測定した。さらに降水を延べ 80 回測定した。以上の結果は、現在は原子力規制委員会から公表される。

放射能精度管理試験

文部科学省が配布する放射能試料の計 7 検体を測定し、分析精度を確認した。

福島原発事故対応モニタリング調査

平成 23 年 3 月 11 日に発生した福島第一原子力発電所事故対応のモニタリング調査を、文部科学省の指示により行った。毎平日に採取した陸水 (水道水) の検体について、Ge 半導体各種分析装置による分析を行った。またサーベイメータにより空間線量率の測定を毎月 1 回行った。これらの結果は山梨県及び原子力規制委員会のホームページで公表されている。

朝鮮人民共和国 (北朝鮮) 核実験に伴うモニタリング調査

平成 25 年 3 月 12 日に朝鮮人民共和国 (北朝鮮) が実施した核実験の環境影響調査を、大気浮遊粉じんなど 20 検体について行った。

苦情、事故に伴う検査

悪臭の苦情に対応するために、パネル選定試験を林務環境事務所などの職員 11 名に行った。

(2) 水質科

環境水質試験

河川、湖沼の公共用水域と地下水について延べ 53 地点のクロロホルムなど要監視項目を測定した。湖沼の水質を保全する目的で、富士五湖の延べ 270 検体について水質を調査した。これらは、「やまなしの環境」に公表される。

また水生生物調査法研修を行った。さらに土砂崩落やミニ処分場などの影響や経過を知るため、延べ 29 地点で水質をモニタリングした。

苦情、事故に伴う検査

水質汚濁の事故や苦情で持ち込まれた延べ 7 検体について試験を行った。(資料 表 3)

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内の河川で底質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

(3) 廃棄物科

廃棄物試験

山梨県内のごみ焼却場の焼却灰 10 件について、溶出試験を行った。

排水試験

事業場の排水延べ 329 検体、し尿処理施設、最終処分場などの放流水延べ 69 検体の検査を行った。これらは「やまなしの環境」で公表される。

浄化槽放流水試験

平成 24 年度浄化槽放流水検査計画に基づき、浄化槽放流水 139 検体について検査を行った。

苦情、事故に伴う検査

廃棄物処理施設に係る緊急事案について 8 検体の試験を行った。(資料 表 3)

資 料

- 表 1-1 平成 24 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果
- 表 1-2 平成 24 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果
- 表 1-3 平成 24 年度 食品等の理化学検査件数
- 表 2-1 平成 24 年度 衛生動物検査結果
- 表 2-2 平成 25 年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量
- 表 2-3 平成 24 年度 細菌感染症等に関する検査結果
- 表 2-4 平成 24 年度 腸管出血性大腸菌感染症志賀毒素検査
- 表 2-5 平成 24 年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果
- 表 2-6 平成 24 年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果
- 表 2-7 平成 24 年度 浴槽水レジオネラ属菌検査結果
- 表 2-8 平成 24 年度 収去食品の細菌検査結果
- 表 2-9 平成 24 年度 ふきとり検査結果
- 表 2-10 平成 24 年度 日本脳炎流行予測調査
- 表 2-11 平成 24 年度 インフルエンザ流行予測調査結果(株・年齢別)
- 表 2-12 平成 24 年度 月別ウイルス検出状況と臨床像（食中毒・集団下痢症を除く）
- 表 2-13 平成 24 年度 食中毒・集団下痢症等のウイルス検査
- 表 2-14 平成 24 年度 インフルエンザ様疾患（集団かぜ）発生時のウイルス検査
- 表 3 平成 24 年度 環境汚染に係わる苦情、事故に伴う検査

表1-1 平成24年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果

食品名	トマト	ホウレンソウ	キャベツ	スイートコーン	きゅうり	なす
検体数	5	4	4	4	5	3
アセタミプリド	-	-	-	-	-	-
イプロジオン	-	-	-	-	-	-
イミダクロプリド	-	0.005	0.002	0.01 (3)	-	0.03
クレソキシムメチル	-	-	-	-	-	-
クロチアニジン	-	-	-	-	-	-
クロルピリホス	-	-	-	-	-	-
クロルフェナピル	-	-	-	-	-	-
ジエトフェンカルブ	0.04	-	-	-	-	-
ジフルフェナミド	-	-	-	-	-	0.02
シプロジニル	-	-	-	-	-	-
シベルメトリン	-	-	-	-	-	-
チアクロプリド	-	-	-	-	-	-
テブコナゾール	-	-	-	-	-	-
トリフロキシストロピン	-	-	-	-	-	-
ピフェントリン	-	-	-	-	-	-
フェニトロチオン	-	-	-	-	-	-
フェンブコナゾール	-	-	-	-	-	-
フェンプロパトリン	-	-	-	-	-	-
ブプロフェジン	-	-	-	-	-	-
フルフェノクスロン	-	-	-	-	-	-
プロシミドン	0.1	-	0.02	-	0.05	-
プロパルギット	-	-	-	-	-	-
ヘキサコナゾール	-	-	-	-	-	-
ベルメトリン	-	0.02	-	-	-	-
メチダチオン	-	-	-	-	-	-

()内は検出数

(単位：ppm)

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

鶏の筋肉(5)、牛の筋肉(10)、豚の筋肉(10)、だいこん類の根(3)、だいこん類の葉(1)、たまねぎ(1)、いんげん(2)、さといも(1)、キウイ(2)、にんじん(1)、ばれいしょ(1)

表 1-1 平成 24 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果 (続き)

食品名	こまつな	はくさい	おうとう	すもも	もも
検体数	2	2	6	9	13
アセタミプリド	-	-	-	-	-
イプロジオン	-	-	0.3	-	-
イミダクロプリド	-	0.002	-	0.004 ~ 0.02 (3)	0.01 ~ 0.02 (2)
クレソキシムメチル	-	-	-	-	-
クロチアニジン	-	-	-	-	-
クロルピリホス	-	-	-	0.02 (2)	-
クロルフェナピル	0.02	-	-	-	-
ジエトフェンカルブ	-	-	-	-	-
ジフルフェナミド	-	-	-	-	-
シプロジニル	-	-	-	-	-
シベルメトリン	-	-	-	-	-
チアクロプリド	-	-	-	0.005 ~ 0.01 (3)	0.02 ~ 0.05 (2)
テブコナゾール	-	-	0.04 ~ 0.4 (4)	-	-
トリフロキシストロピン	-	-	-	-	-
ピフェントリン	-	-	0.04 ~ 0.08 (3)	-	-
フェニトロチオン	-	-	-	-	-
フェンブコナゾール	-	-	0.01 ~ 0.2 (5)	-	0.04 (2)
フェンプロパトリン	-	-	-	-	-
ブプロフェジン	-	-	0.02	0.03 ~ 0.08 (4)	-
フルフェノクスロン	-	-	-	-	0.001 ~ 0.002 (2)
プロシミドン	-	-	-	-	-
プロパルギット	-	-	-	-	-
ヘキサコナゾール	-	-	0.02	-	-
ペルメトリン	-	-	0.03 ~ 0.4 (6)	0.03 ~ 0.06 (2)	-
メチダチオン	-	-	0.005 ~ 0.2	0.01	-

() 内は検出数

(単位 : ppm)

表 1-1 平成 24 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果 (続き)

食品名	ぶどう	日本なし	かき	りんご
検体数	19	2	2	1
アセタミプリド	0.02 (2)	-	-	0.01
イプロジオン	0.1	-	-	-
イミダクロプリド	0.005 ~ 0.07 (12)	-	-	-
クレソキシムメチル	0.004	0.05 ~ 0.06 (2)	0.02	-
クロチアニジン	0.002 ~ 0.01 (2)	0.01	-	-
クオルピリホス	-	-	-	-
クオルフェナピル	0.02 ~ 0.4 (2)	-	-	-
ジエトフェンカルブ	-	-	-	-
ジフルフェナミド	-	-	-	-
シプロジニル	0.001 ~ 0.2 (7)	0.001	-	-
シベルメトリン	-	-	-	0.02
チアクロプリド	0.02 ~ 0.03 (2)	-	-	0.008
テブコナゾール	0.02 ~ 0.2 (3)	-	-	-
トリフロキシストロピン	-	-	-	0.02
ピフェントリン	-	-	0.02	-
フェニトロチオン	-	-	0.07	-
フェンブコナゾール	0.01	-	-	-
フェンプロパトリン	-	0.1	-	-
ブプロフェジン	-	-	-	-
フルフェノクスロン	-	-	-	-
プロシミドン	-	-	-	-
プロパルギット	-	-	-	0.03
ヘキサコナゾール	-	-	-	-
ペルメトリン	0.006 ~ 0.04 (3)	-	-	-
メチダチオン	-	-	-	-

() 内は検出数

(単位 : ppm)

表 1-2 平成 24 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果

食品名	おうとう	アボカド	ブロッコリー	冷凍えだまめ
検体数	2	3	4	2
アセタミプリド	-	-	-	0.02
イソプロカルブ	-	-	-	-
イミダクロプリド	-	-	-	-
クロチアニジン	-	-	-	-
クロルピリホス	-	-	-	-
クロルプロファム	-	-	-	-
シハロトリン	0.03~0.2 (2)	-	-	-
シベルメトリン	-	-	-	0.3
シマジン	-	-	-	-
チアメトキサム	-	-	-	-
テブコナゾール	0.01~0.3 (2)	-	-	-
ピリダベン	-	-	-	-
ピリプロキシフェン	-	-	-	-
ピロキロン	-	-	0.007	-
フェンブコナゾール	-	-	-	-
フェンプロパトリン	0.3	-	-	-
ベルメトリン	-	0.04	-	-
ミクロブタニル	0.02	-	-	-
メトキシフェノジド	0.002~0.004 (2)	-	-	-

食品名	冷凍ばれいしょ	グレープフルーツ	オレンジ	レモン
検体数	1	2	3	2
アセタミプリド	-	-	-	-
イソプロカルブ	-	-	-	0.004
イミダクロプリド	0.02	0.002~0.003 (2)	0.001	0.002
クロチアニジン	-	0.001	-	-
クロルピリホス	-	0.001~0.009 (2)	0.03	-
クロルプロファム	6	-	-	-
シハロトリン	-	-	-	-
シベルメトリン	-	-	-	-
シマジン	-	-	0.01	-
チアメトキサム	-	-	0.001	-
テブコナゾール	-	-	-	-
ピリダベン	-	0.001	-	-
ピリプロキシフェン	-	0.008	-	-
ピロキロン	-	-	-	-
フェンブコナゾール	-	0.005 (2)	-	-
フェンプロパトリン	-	-	-	-
ベルメトリン	-	-	-	-
ミクロブタニル	-	-	-	-
メトキシフェノジド	-	-	-	-

()内は検出数

(単位:ppm)

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

かぼちゃ(3)、冷凍さといも(4)、バナナ(2)、冷凍スイートコーン(3)

表1-3 平成24年度 食品等の理化学検査件数

収去者	衛生薬務課																			小計	保健所			合計				
	乳・乳製品	アイスクリーム類	生あん類	菓子類	果実酒・雑酒	食肉製品	こんにゃく粉	淡水魚(マス類等)	魚肉ねり製品	鶏卵	はちみつ	清涼飲料水・果汁	ミネラルウォーター	調味料	漬物	そうざい	あんぼ柿・ころ柿	めん類	乾燥果実		おもちゃ	器具及び容器包装	かんきつ類		魚肉ねり製品	ミネラルウォーター	めん類	しらす(市場)
検体数	9	9	8	4	141	26	5	9	15	16	5	56	51	6	34	7	16	29	22	9	7	6	490	2	1	16	11	520
二酸化硫黄			8		141		5										16		22				192					192
ソルビン酸					141	26			15					1	34	2			1				220	2				222
安息香酸												56		5	11	5							77					77
パラオキシ安息香酸												56		6	24	5							91					91
サッカリンナトリウム														1	2								3					3
プロピレングリコール																		29					29			16		45
水分含量																		29					29			16		45
過酸化水素																							0				11	11
タール色素				4								1			13				4				22					22
亜硝酸根						26																	26					26
混濁												56	51										107		1			108
沈殿物及び固形の異物												56	51										107		1			108
ヒ素												56	51							6			113		1			114
鉛												56	51							6	9		122		1			123
カドミウム												56	51							1	9		117		1			118
スズ												56	51										107		1			108
pH												56	51										107		1			108
乳脂肪分	9	9																					18					18
無脂乳固形分	9	9																					18					18
比重	1																						1					1
酸度	1																						1					1
シアン化合物			8																				8					8
防ばい剤																						7	7					7
合成抗菌剤							9		16														25					25
抗生物質							9		16	5													30					30
フルベンダゾール									16														16					16
合計	20	18	16	4	282	52	5	18	15	48	5	505	357	13	84	12	16	58	27	13	18	7	1,593	2	7	32	11	1,645

表2-1 平成24年度 衛生動物検査結果

区分	a：昆虫類	b：ダニ類	c：その他	合計
A：食品異物	6		1	7
B：衛生動物	11	2	5	18
C：寄生虫			2	2
D：電話相談等	5		2	7
合計	22	2	10	34

(内訳)

月日	依頼機関	数量	結果	備考	区分
4. 6	中北保健所峡北支所	多数	トビムシ	小さい虫が大量発生	B, a
4.26	甲斐市環境課	16	カワニナ	河川清掃時に発見した貝が感染貝か心配	B, c
5. 7	県民(食品業者)	1	ムカデの1種	おにぎりに虫	A, c
5.28	中北保健所	2	クダアセブテンブクタータ	ヒラメ(養殖)	C, c
6. 6	峡東保健所	1	ヤケヤスデ	駆除しても再度、発生	B, c
6.25	峡東保健所	4	カゲロウ幼虫の1種	ポリ容器内の水に虫	B, a
6.28	甲府市役所	1	コマルハナバチ成虫	家屋下の換気口からハチ	B, a
6.28	峡南林務環境事務所	1	電話相談	野外の放置タイヤの蚊の防除、駆除方法	D, a
7.17	中北保健所峡北支所	2	オカチョウジガイ	ミヤイリガイか心配	B, c
7.17	中北保健所	1	ハリガネムシ	学校プールにて発見	B, c
7.24	甲斐市役所	5	ヒメモノアラガイ	水田に大量発生して心配	B, c
8. 2	富士・東部保健所	1	電話相談	カマドウマが物置に大量発生	D, a
8.15	富士・東部保健所	6	タバコシバンムシ	居間に虫が大量発生し、台所にも飛来する	B, a
8.21	富士・東部保健所	1	コメノシマメイガ幼虫	いたる所に虫がいる	B, a
8.21	中北保健所	1	アニサキス 型	痛みにて病院受診、内視鏡にて虫摘出	C, c
8.27	富士・東部保健所	4	電話相談	工場にてノミバエが大量発生	D, a
9.13	県民	3	コクヌストモドキ類成虫	米びつから発生	A, a
9.18	富士・東部保健所	1	電話相談	ヤモリ駆除方法	D, c
9. 2	中北保健所峡北支所	多数	ウンカ類成虫	住宅地付近の街灯に大量に飛来	B, a
9.26	中北保健所	11	有羽アリ()成虫	シロアリの鑑別	B, a
9.28	中北保健所	1	アルゼンチンアリ以外のアリ	アルゼンチンアリの鑑別	B, a
10. 1	峡東保健所	1	クロスズメバチ	食品(地菜炒め)からの異物	B, a
10. 2	峡東保健所	1	ミズアブ類幼虫	トイレに虫	B, a
10.12	富士・東部保健所	7	ノミバエ類蛹囲	ミネラルウォーターに虫	A, a
10.16	中北保健所	19	スジマダラメイガ幼虫	パンからウジ虫	A, a
11.19	富士・東部保健所	多数	電話相談	カマドウマ駆除方法	D, a
11.22	峡東保健所	1	スコットカメムシ成虫	大量のカメムシが飛来	B, a
12. 7	富士・東部保健所	多数	電話相談	イエバエ科幼虫	D, a
12. 2	甲府市環境部	1	殺貝剤(B-2)問い合わせ	地方病撲滅事業関連	D, c
12.21	富士・東部保健所	1	イエニクダニ	室内(押し入れ)に大量の虫	B, b
1. 7	中北保健所峡北支所	1	同定不能(ハサミムシ目の可能性大)	大根に虫	A, a
2.15	中北保健所	1	マキバカスミカメ成虫	キムチに虫	A, a
3.11	峡東保健所	1	ガ類幼虫	茹で枝豆の莢内に虫	A, a
3.27	峡南保健所	2	フタトゲチマダニ成虫	ペット(イヌ)についていたダニ	B, b

A：食品異物 B：衛生動物 C：寄生虫 D：電話相談 a：昆虫類 b：ダニ類 c：その他

表2-2 平成25年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量

測定期間 月/日～月/日	スギ・ヒノキ花粉量別日数					花粉量平均値	
	微量 0～1	少ない ～10	やや多い ～30	多い ～100	非常に多い 101～	スギ	ヒノキ
第1週 1/1～1/7	7					0.0	0.0
2 1/8～1/14	7					0.0	0.0
3 1/15～1/21	7					0.2	0.0
4 1/22～1/28	7					0.0	0.0
5 1/29～2/4	7					0.2	0.0
6 2/5～2/11	7					0.4	0.0
7 2/12～2/18	3	2	1	1		8.1	0.0
8 2/19～2/25	4	3				1.6	0.0
9 2/26～3/4		1	1	1	4	121.8	0.0
10 3/5～3/11					7	353.5	0.6
11 3/12～3/18			1	3	3	107.1	3.5
12 3/19～3/25					7	124.0	72.6
13 3/26～4/1			1	3	3	26.6	111.5
14 4/2～4/8		1	4		2	19.0	58.3
15 4/9～4/15		2	2	2	1	7.5	39.4
16 4/16～4/22		6	1			1.7	14.8
17 4/23～4/29	4	3				0.1	1.4
18 4/30～5/5	5	1				0.0	0.4
平成25(2013)年	58 62%	19	11 17%	10	27 22%	42.9	16.8
平成24(2012)年	64 71%	27	19 27%	15	3 2%	10.6	3.9
平成23(2011)年	55 52%	15	21 34%	25	19 14%	35.2	10.3
平成22(2010)年	69 83%	35	15 17%	7	0 0%	2.8	1.4
平成21(2009)年	35 48%	23	20 43%	33	11 9%	22.4	5.3
平成20(2008)年	32 63%	43	15 36%	28	1 1%	20.7	5.1

観測場所：衛生環境研究所屋上 花粉量：1cm²あたりの換算値(個)

表2-3 平成24年度 細菌感染症等に関する検査結果

月 日	依頼機関	検査項目	検体数 (菌株数)	結果 <株数>
4.25	峡東保健所	レジオネラ	1	-
5. 8	中北保健所	EHEC	15	-
5.23	峡東保健所	レジオネラ	9	-
6.14	富士・東部保健所	レジオネラ	1	-
7.20	中北保健所	EHEC	4	-
7.25	中北保健所	EHEC	1	-
7.26	中北保健所峡北支所	EHEC	4	-
8.14	中北保健所	EHEC	4	-
8.20	甲府共立病院	EHEC	1	<i>E. coli</i> 0157:H7 (Stx1,2) <1>
8.21	中北保健所峡北支所	EHEC	3	-
9.11	甲府共立病院	EHEC	1	<i>E. coli</i> 026:H11 (Stx2) <1>
9.12	中北保健所	EHEC	134	<i>E. coli</i> 026:H11 (Stx2) <12>
9.12	甲府共立病院	EHEC	1	-
9.19	富士・東部保健所	EHEC・赤痢菌	1	-
9.25	富士・東部保健所	レジオネラ	1	<i>L. pneumophila</i> SG1 <1>
9.28	中北保健所	EHEC	1	-
10. 5	富士・東部保健所	EHEC	2	-
10. 6	富士・東部保健所	EHEC	1	-
10.17	中北保健所	EHEC	8	-
2.25	甲府共立病院	EHEC	1	-
3.29	中北保健所峡北支所	EHEC	2	<i>E. coli</i> 0103:H2 (Stx1) <1>
合計			196	

表2-4 平成24年度 腸管出血性大腸菌感染症志賀毒素検査

No.	分離月日	血清型	年齢	性	患者・保菌者別	志賀毒素型	備考
1	8.2	0157:H7	56	F	患者	Stx1 Stx2	
2	9.11	026:H11	0	F	患者	Stx2	
3	9.14	026:H11	0	F	患者	Stx2	
4	9.14	026:H11	30	F	保菌者	Stx2	
5	9.14	026:H11	3	F	保菌者	Stx2	
6	9.14	026:H11	2	F	保菌者	Stx2	
7	9.15	026:H11	0	F	患者	Stx2	
8	9.15	026:H11	1	M	患者	Stx2	
9	9.15	026:H11	1	M	患者	Stx2	
10	9.16	026:H11	0	F	患者	Stx2	
11	9.18	026:H11	3	M	保菌者	Stx2	
12	9.21	026:H11	1	M	患者	Stx2	
13	9.21	026:H11	1	M	保菌者	Stx2	
14	9.22	026:H11	5	F	保菌者	Stx2	
15	H25.4.1	0103:H2	19	F	保菌者	Stx1	

表2-5 平成24年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

月 日	依頼機関	検 体 数			計	検 出 菌	
		糞便・吐物	食品	その他		ヒト・菌株由来(株数)	食品・その他由来(株数)
4. 6	峡南HC	2			2	-	
4. 7	中北HC	13			13	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
4. 9	中北HC峡北支所	2			2	-	
4.10	峡東HC	6		7	13	<i>Campylobacter coli</i> (1)	-
4.10	中北HC	3			3	-	
4.11	中北HC峡北支所	1			1	-	
4.20	中北HC	4		7	11	<i>Campylobacter jejuni</i> (2)	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)
4.20	峡東HC	2			2	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)	
4.24	富士・東部HC	3		4	7	-	-
5. 9	中北HC	13		13	26	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
5. 9	峡東HC	1			1	-	-
5.25	峡東HC	18	31		58	-	-
5.28	中北HC	8	7	6	21	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
6.11	中北HC峡北支所	18		15	33	<i>Clostridium perfringens</i> (1)	-
6.25	中北HC	2		5	7	-	-
7.18	富士・東部HC	2			2	-	-
7.25	中北HC	69			69	<i>Clostridium perfringens</i> (44)	-
7.28	富士・東部HC	19	31	10	60	<i>Clostridium perfringens</i> (16)	-
8.18	中北HC峡北支所	3		7	10	<i>Clostridium perfringens</i> (3)	-
8.19	中北HC	10			10	<i>Clostridium perfringens</i> (10)	-
8.21	富士・東部HC	2		5	7	-	-
8.22	中北HC峡北支所	3	14	5	22	<i>Escherichia coli</i> (2)	-
8.29	中北HC	6		3	9	<i>Salmonella Enteritidis</i> (1)	<i>Salmonella Enteritidis</i> (1)
9. 6	峡東HC	36	59	10	105	<i>Clostridium perfringens</i> (25)	-
9.13	峡東HC	1	1		2	<i>Bacillus cereus</i> (1)	<i>Bacillus cereus</i> (1)
11.29	中北HC	4			4	-	-
11.29	峡南HC	7	18	6	31	-	-
12.11	中北HC	13			13	-	-
12.12	中北HC	18			18	-	-
12.12	中北HC	14			14	-	-
12.12	峡東HC	5			5	-	-
12.13	中北HC	42	89	42	173	-	-
12.14	中北HC	16			16	-	-
12.14	中北HC峡北支所	6			6	-	-
12.14	峡南HC	5			5	-	-
12.17	富士・東部HC	12		10	22	-	-
12.17	中北HC	7			7	-	-
12.18	中北HC	5		5	10	-	-
12.18	富士・東部HC	18		10	28	-	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)
12.19	中北HC	7		6	13	-	-
12.19	峡東HC	3			3	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
12.19	富士・東部HC	4			4	-	-
12.20	中北HC	4		4	8	-	-
12.20	峡東HC	3			3	-	-
12.20	富士・東部HC	1			1	-	-
12.21	富士・東部HC			5	5	-	-
12.21	富士・東部HC	4			4	-	-
12.22	峡東HC	12			12	-	-
12.22	富士・東部HC	3			3	-	-
12.23	中北HC	20			20	<i>Staphylococcus aureus</i> (3)	-
12.26	峡東HC	22			22	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
12.26	中北HC	14			14	<i>Staphylococcus aureus</i> (3)	-
12.27	富士・東部HC	15		10	25	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
1.12	中北HC峡北支所	2			2	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
1.12	中北HC	19			19	-	-
1.16	中北HC	16		5	21	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
1.17	中北HC	6		5	11	<i>Clostridium perfringens</i> (1)	-
1.19	富士・東部HC	17		5	22	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
1.22	峡東HC	17		9	26	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
1.22	峡東HC	6	6	10	22	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
1.22	峡東HC	10			10	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
1.22	中北HC	30	36	5	71	<i>Clostridium perfringens</i> (1)	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> (1)
1.22	峡南HC	4			4	-	-
1.23	中北HC峡北支所	1			1	-	-
1.23	峡東HC	5			5	-	-
2. 1	峡南HC			5	5	-	-
2. 6	中北HC	5		5	10	-	-
2.22	峡東HC	3			3	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
2.28	富士・東部HC	6			6	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
3.14	富士・東部HC	8			8	-	-
3.16	峡南HC	5			5	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
3.19	中北HC	7			7	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)	-
3.19	中北HC峡北支所	3			3	-	-
3.19	中北HC峡北支所	13			13	<i>Staphylococcus aureus</i> (3)	-
3.24	中北HC峡北支所	34			34	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
3.24	中北HC	5			5	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	-
3.27	中北HC	22			22	<i>Staphylococcus aureus</i> (4)	-
	合計	775	292	253	1320		

HC：保健所

表2-6 平成24年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

月 日	依頼機関	検査項目	検体	検体数	結果
1. 9	富士・東部保健所	大腸菌群、一般生菌数	ミネラルウォーター	1	一般生菌数(270CFU/mL)
2.22	衛生薬務課	無菌試験	真空採血管	1	-
合 計				2	

表2-7 平成24年度 浴槽水レジオネラ属菌検査結果

採水日	検体数	陽性検体数	菌種 (株数)	群血清 (株数)
4.25	5	1	<i>L. pneumophila</i> (1)	5(1)
5.22	4	1	<i>L. pneumophila</i> (3)	3(1)、5(1)、UT(1)
5.29	8	3	<i>L. pneumophila</i> (2) <i>L. micdadei</i> (1) <i>L. maceachernii</i> (1) <i>L. jordanis</i> (1)	1(1)、3(1)
5.30	2	1	<i>L. pneumophila</i> (1)	5(1)
6.14	2	1	<i>L. pneumophila</i> (1)	6(1)
8.22	10			
1.10	1	1	<i>L. pneumophila</i> (2)	1(1) 3(1)
合計	32	8		

UT: 群型別不能

表2-9 平成24年度 ふきとり検査結果

依頼機関	大腸菌群		黄色ブドウ球菌	
	検査数	陽性数 (%)	検査数	陽性数 (%)
衛生薬務課	1,289	167(13)	1,289	61(5)
保健所 (検査車)	909	150(17)	909	36(4)
合計	2,198	317(14)	2,198	97(4)

表2-10 平成24年度 日本脳炎流行予測調査

回数	採血月日	調査頭数	HI抗体価 ^{*1}						HI抗体 陽性数 ^{*2} (%)	2ME感受性抗体 陽性数 (%)
			< 10	10	20	40	80	160		
1	7.19	10	10						0 (0)	0 (0)
2	7.30	10	10						0 (0)	0 (0)
3	8. 9	10	10						0 (0)	0 (0)
4	8.17	10	10						0 (0)	0 (0)
5	8.29	10	10						0 (0)	0 (0)
6	9. 6	10	10						0 (0)	0 (0)
7	9.21	10	8	2					2 (20)	0 (0)
8	9.27	10	10						0 (0)	0 (0)

*1: 抗原 JaGAR#01 *2: 赤血球凝集抑制(HI)抗体価 10

表2-8 平成24年度 食品の細菌検査数

収去区分	分類		一般生菌数	大腸菌群	E.coli	腸管出血性大腸菌O157	黄色ブドウ球菌	セレウス菌	サルモネラ属菌	クロストリジウム属菌	リステリア属菌	乳酸菌数	抗生物質	塩分濃度	鮮度試験	E.coli (最確数)	カンピロバクター菌	腸炎ビブリオ (最確数)	腸炎ビブリオ (増菌培養)	合計	
衛生業務課	生食用魚介類	10																10		10	
	生食用カキ	4	4												4	4	4		4		20
	魚肉ねり製品	15		15																	15
	食肉製品	26		3	23	26	23		23	4											102
	液卵	3	2						1												3
	牛乳	1	1	1																	2
	乳飲料	4	4	4																	8
	乳酸菌飲料	1		1									1								2
	発酵乳	3		3									3								6
	アイスクリーム	1	1	1																	2
	アイスマルク	5	5	5																	10
	ラクトアイス	3	3	3																	6
	氷菓	2	2	2																	4
	めん類	41	41	12	29			41													123
	そうざい(加熱処理)	104 (1)	104		104	28	104 (1)														340 (1)
	そうざい(非加熱処理)	37 (2)	37 (1)		37 (1)	4	37														115 (2)
	弁当類	40 (3)	40 (3)		40		40		40 (3)												160 (3)
	包装豆腐	7 (1)	7 (1)	7																	14 (1)
	その他の豆腐	22	22	22																	44
	漬物、一夜漬け	7			7	7														7	21
	カット野菜	3	3		3		3														9
	洋生菓子	16 (1)	16	16 (1)			16														48 (1)
	和生菓子	31 (2)	31	31 (2)		1	31														94 (2)
	冷凍食品	25	25	11	14																50
	ミネラルウォーター	51 (4)	46 (4)	51																	97 (4)
	その他の清涼飲料水	56		56																	56
	ナチュラルチーズ	14										14									14
	その他の菓子	3	3	3			3														9
合成樹脂製容器包装詰食品	1	1	1																	2	
抗生物質	30												30							30	
小計	566 (14)	398 (6)	248 (3)	257 (1)	66	298 (1)	40 (3)	24	4	14	4	4	30	4	4	4		14	7	1416 (14)	
(食品衛生所検査車)	アイスクリーム	13 (2)	13	13 (2)																26 (2)	
	アイスマルク	11 (3)	11	11 (3)																22 (3)	
	ラクトアイス	5	5	5																10	
	めん類	19 (3)	19 (2)	2	17 (1)		19 (1)														57 (4)
	そうざい(加熱処理)	15	15		15		15														45
	そうざい(非加熱処理)	34 (6)	34 (6)		34		34														102 (6)
	弁当類	10 (2)	10 (2)		10		10	10													40 (2)
	洋生菓子	18 (5)	18	18 (5)			18														54 (5)
	和生菓子	36 (7)	36 (5)	36 (3)			36 (3)														108 (11)
	生食用食肉	16 (1)	16 (1)		16	4	16		16									16			84 (1)
	調理パン	40 (5)	40 (5)		40		40														120 (5)
その他の豆腐	13	13	13																	26	
包装豆腐																					
小計	230 (34)	230 (21)	98 (13)	132 (1)	4	188 (4)	10	16									16			694 (39)	
(保健所)	生食用魚介類	9																	9	9	
	生食用カキ	7	7											7	7	7			7	35	
	魚肉ねり製品	2		2																2	
小計	18	7	2											7	7	7			16	46	
H 24年度 合計	814 (48)	635 (27)	348 (16)	389 (2)	70	486 (5)	50 (3)	40	4	14	4	30	11	11	11		16	30	7	2156 (53)	

() 内は「規格基準」、「衛生規範」又は「山梨県食品指導基準」に適合していない数

表2-11 平成24年度 インフルエンザ流行予測調査結果

1: A/カワコニア/7/2009pdm(A (H1N1) pdm09亜型)株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								10抗体		40抗体	
		<10	10	20	40	80	160	320	640	保有者数 (%)	保有者数 (%)		
5~9	22	2	3	2	6	7	2	0	0	20 (90.9)	15 (68.2)		
10~14	22	2	1	3	3	7	4	1	1	20 (90.9)	16 (72.7)		
15~19	22	1	1	3	4	6	5	2	0	21 (95.5)	17 (77.3)		
20~29	22	1	5	7	6	2	1	0	0	21 (95.5)	9 (40.9)		
30~39	22	9	2	2	6	2	1	0	0	13 (59.1)	9 (40.9)		
40~49	22	11	4	0	1	5	1	0	0	11 (50.0)	7 (31.8)		
50~59	22	10	2	3	2	3	1	1	0	12 (54.5)	7 (31.8)		
60~	22	8	5	3	2	4	0	0	0	14 (63.6)	6 (27.3)		
全年齢層	176	44	23	23	30	36	15	4	1	132 (75.0)	86 (48.9)		

2: A/ヒ^{*}クア/361/2011(A (H3N2) 亜型)株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								10抗体		40抗体	
		<10	10	20	40	80	160	320	640	保有者数 (%)	保有者数 (%)		
5~9	22	3	8	7	4	0	0	0	0	19 (86.4)	4 (18.2)		
10~14	22	2	9	9	2	0	0	0	0	20 (90.9)	2 (9.1)		
15~19	22	2	7	7	6	0	0	0	0	20 (90.9)	6 (27.3)		
20~29	22	8	2	11	0	0	1	0	0	14 (63.6)	1 (4.5)		
30~39	22	9	8	3	1	1	0	0	0	13 (59.1)	2 (9.1)		
40~49	22	3	13	3	2	1	0	0	0	19 (86.4)	3 (13.6)		
50~59	22	9	5	1	3	0	3	0	1	13 (59.1)	7 (31.8)		
60~	22	11	2	1	3	1	4	0	0	11 (50.0)	8 (36.4)		
全年齢層	176	47	54	42	21	3	8	0	1	129 (73.3)	33 (18.8)		

3: B/ブ^{*}リス^{*}ン/60/2008(B型 (ヒ^{*}クア系統))株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								10抗体		40抗体	
		<10	10	20	40	80	160	320	640	保有者数 (%)	保有者数 (%)		
5~9	22	1	9	10	0	1	1	0	0	21 (95.5)	2 (9.1)		
10~14	22	2	9	5	2	4	0	0	0	20 (90.9)	6 (27.3)		
15~19	22	3	6	11	2	0	0	0	0	19 (86.4)	2 (9.1)		
20~29	22	1	4	9	8	0	0	0	0	21 (95.5)	8 (36.4)		
30~39	22	2	4	5	6	4	1	0	0	20 (90.9)	11 (50.0)		
40~49	22	3	9	4	2	4	0	0	0	19 (86.4)	6 (27.3)		
50~59	22	3	7	6	5	1	0	0	0	19 (86.4)	6 (27.3)		
60~	22	3	5	11	0	2	1	0	0	19 (86.4)	3 (13.6)		
全年齢層	176	18	53	61	25	16	3	0	0	158 (89.8)	44 (25.0)		

4: B/ウイ^{*}スコ^{*}ソ^{*}ン/1/2010(B型 (山形系統))株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体 価								10抗体		40抗体	
		<10	10	20	40	80	160	320	640	保有者数 (%)	保有者数 (%)		
5~9	22	7	6	5	3	1	0	0	0	15 (68.2)	4 (18.2)		
10~14	22	3	6	7	3	3	0	0	0	19 (86.4)	6 (27.3)		
15~19	22	7	8	3	4	0	0	0	0	15 (68.2)	4 (18.2)		
20~29	22	5	12	4	0	1	0	0	0	17 (77.3)	1 (4.5)		
30~39	22	7	10	4	1	0	0	0	0	15 (68.2)	1 (4.5)		
40~49	22	7	9	4	1	1	0	0	0	15 (68.2)	2 (9.1)		
50~59	22	13	6	3	0	0	0	0	0	9 (40.9)	0 (0.0)		
60~	22	12	5	3	2	0	0	0	0	10 (45.5)	2 (9.1)		
全年齢層	176	61	62	33	14	6	0	0	0	115 (65.3)	20 (11.4)		

表2-12 平成24年度 月別ウイルス検出状況と臨床像（食中毒・集団下痢症を除く）

検体採取年月	2012年												2013年			計	臨床像（検出数）
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
検体数	10	11	9	50	18	13	9	1	28	78	80	59	366				
検出ウイルス	麻疹ウイルス	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	麻疹ん疑い(1)			
	風疹ウイルス	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	-	4	麻疹ん疑い(4)			
	ヒトヘルペスウイルス 6型	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	麻疹ん疑い(2)			
	コクサッキーウイルス A 9型	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-	-	17	麻疹ん疑い(1) 感染性胃腸炎(1) 急性咽頭扁桃炎(8) ヘルパンギーナ様(3) 咽頭炎(2) 風しん疑い(1) ウイルス性発疹(1)			
	エコーウイルス 7型	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	3	麻疹ん疑い(1) 急性咽頭扁桃炎(1) 咽頭炎(1)			
	アデノウイルス	2型	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	急性咽頭扁桃炎(1)		
		5型	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	咽頭炎(1)		
	ノロウイルス	型別不明	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	2	感染性胃腸炎(2)		
		G	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	感染性胃腸炎(1)		
	アストロウイルス	G	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	4	感染性胃腸炎(4)		
			-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	感染性胃腸炎(1)		
	インフルエンザ	A(H3)	2	3	-	-	-	11	-	-	20	72	49	26	183	インフルエンザ様(183)	
		B	7	6	-	-	-	-	-	-	-	-	12	18	43	インフルエンザ様(43)	
A(H1N1)2009pdm		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	5	16	インフルエンザ様(16)		
合計	9	9	5	22	3	11	2	0	25	73	61	44	264				

表2-14 平成24年度 インフル様疾患（集団かぜ）発生時のウイルス検索

集団発生施設と月日	ウイルス検出 [*]			
	検体数	陽性数	検出ウイルス	
子供の村小学校（中北HC峡北支所）	12/7	7	5	Inf.A(H3)
八代小学校（峡東HC管内）	12/18	5	2	Inf.A(H3)
六郷中学校（峡南HC管内）	1/21	5	5	Inf.A(H3)
都留文科大学附属小学校（富士・東部HC管内）	1/22	6	6	Inf.A(H3)

*：リアルタイムPCR法で遺伝子検出、組織培養法（HEp-2, RD-18S, MDCK, CaCO-2）でウイルス分離
Inf.：インフルエンザウイルス

表2-13 平成24年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査

月・日	保健所	検体数	検 体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
4.6	峡南	2	2				-	0
4.7	中北	13	13				ノロウイルスG	1
4.9	中北(峡北支所)	4	4				ノロウイルスG	1
4.10	中北	3	3				ノロウイルスG	3
4.10-12	峡東	6	6				ノロウイルスG	1
							ノロウイルスG	4
4.11	中北(峡北支所)	1	1				ノロウイルスG	1
4.20-21	中北	4	4				-	0
4.20	峡東	2	2				-	0
4.24	富士・東部	5	5				A群ロタウイルス	2
4.24	富士・東部	7	7				A群ロタウイルス	4
5.9-12	中北	13	13				ノロウイルスG	5
5.9	峡東	1	1				ノロウイルスG	1
5.14	富士・東部	10	10				ノロウイルスG	9
5.25-29	峡東	18	18				-	0
5.28	中北	15	8		7		-	0
5.28	富士・東部	4	4				サポウイルス	4
6.12-14	中北(峡北支所)	18	18				サポウイルス	1
6.25	中北	2	2				-	0
7.18	富士・東部	2	2				-	0
7.25-27	中北	68	68				-	0
7.28-29	峡南	19	19				-	0
8.19-20	中北	10	10				-	0
8.20-21	中北(峡北支所)	3	3				-	0
8.21	富士・東部	2	2				-	0
8.23	中北(峡北支所)	3	3				-	0
8.30	中北	6	6				-	0
9.6-9	峡東	31	31				-	0
9.13	峡東	1	1				-	0
11.29	中北	4	4				ノロウイルスG	4
11.29-30	峡南	31	7		18	6	ノロウイルスG	1
12.1-3	中北	22	22				ノロウイルスG	2
							ノロウイルスG	11
12.1	中北(峡北支所)	12	12				ノロウイルスG	6
12.4	中北(峡北支所)	3	3				ノロウイルスG	3
12.7	中北(峡北支所)	9	9				ノロウイルスG	5
12.11-14	中北	13	13				-	0
12.12	中北	22	22				ノロウイルスG	17
12.12	中北	14	14				ノロウイルスG	6
12.12	峡東	8	8				ノロウイルスG	5
12.14-17	中北	16	16				ノロウイルスG	7
12.14-16	中北	95	83		12		ノロウイルスG	2
							ノロウイルスG	34
12.14	中北(峡北支所)	6	6				ノロウイルスG	6
12.14	峡南	5	5				ノロウイルスG	5
12.17	中北(峡北支所)	3	3				ノロウイルスG	3
12.17	富士・東部	13	13				ノロウイルスG	1
12.17-18	中北	7	7				ノロウイルスG	6
12.17-19	中北	9	9				ノロウイルスG	7
12.18	富士・東部	26	18		8		ノロウイルスG	7
12.19-24	中北	40	40				ノロウイルスG	12
12.19-23	峡東	4	4				ノロウイルスG	4
12.19	富士・東部	4	4				アデノウイルス	1
12.20-21	中北	5	5				ノロウイルスG	1
							ノロウイルスG	2

表2-13 平成24年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査(続き)

月・日	保健所	検体数	検 体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
12.20-21	峡東	3	3				ノロウイルスG ノロウイルスG	1 2
12.20	富士・東部	1	1				ノロウイルスG ノロウイルスG	1 1
12.21	富士・東部	5	5				ノロウイルスG	5
12.22-23	峡東	12	12				ノロウイルスG ノロウイルスG	1 12
12.22	富士・東部	3	3				ノロウイルスG	3
12.23-25	中北	14	14				ノロウイルスG	4
12.26	中北	14	14				ノロウイルスG	8
12.26-27	峡東	13	13				ノロウイルスG	8
12.27	富士・東部	15	15				ノロウイルスG	8
1.12-14	中北	18	18				ノロウイルスG	5
1.12	中北(峡北支所)	2	2				ノロウイルスG	2
1.16-18	中北	16	16				ノロウイルスG ノロウイルスG	2 6
1.17-18	中北	6	6				-	0
1.19-20	富士・東部	17	17				ノロウイルスG	13
1.22-25	峡東	17	14	3			ノロウイルスG	8
1.22	峡東	10	10				ノロウイルスG	7
1.22-23	峡南	4	4				ノロウイルスG	4
1.23-25	中北	30	30				-	0
1.23	中北(峡北支所)	1	1				ノロウイルスG	1
1.23-24	峡東	5	5				-	0
1.23-25	峡東	6	6				ノロウイルスG	6
1.29-30	富士・東部	6	6				ノロウイルスG	3
2.1	峡南	20	14		6		ノロウイルスG	8
2.5	中北(峡北支所)	9	9				ノロウイルスG	3
2.6-7	中北	5	5				ノロウイルスG ノロウイルスG	2 2
2.15-16	峡南	12	12				ノロウイルスG	7
2.22	峡東	3	3				ノロウイルスG	2
2.28-3.1	富士・東部	7	7				ノロウイルスG	5
3.14	富士・東部	3	3				ノロウイルスG	2
3.16	峡東	4	4				ノロウイルスG	3
3.16	峡南	5	5				ノロウイルスG	4
3.19	中北	7	7				-	0
3.19	中北(峡北支所)	13	13				ノロウイルスG	11
3.19-3.21	中北(峡北支所)	3	3				-	0
3.20-22	峡東	10	10				-	0
3.24-27	中北	5	5				A群ロタウイルス ノロウイルスG	3 1
3.24-27	中北(峡北支所)	16	16				A群ロタウイルス	1
3.26	富士・東部	6	6				ノロウイルスG	6
3.27-29	中北	14	14				ノロウイルスG	4
	合 計	1004	944	3	51	6		370
							ノロウイルスGI**	22
							ノロウイルスG**	332
							サポウイルス**	5
							A群ロタウイルス**	10
							アデノウイルス**	1

*ノロウイルス：リアルタイムRT-PCR法、サポウイルス：PCR法・シーケンス

A群ロタウイルス、アデノウイルス：イムノクロマト法・PCR法

**重複感染を含む

表 3 平成 24 年度 環境汚染に係る苦情、事故に伴う行政検査

No	月・日	搬入者	種 別	摘 要	検体	項目
1	4. 1	富士・東部林務環境事務所	水質汚濁	魚へい死	2	28
2	5. 16	中北林務環境事務所	水質汚濁	魚へい死	3	18
3	6. 11	環境整備課	廃棄物	廃棄物処理苦情	2	72
4	8. 21	環境整備課	廃棄物	廃棄物処理苦情	2	72
5	12. 17	環境整備課	廃棄物	廃棄物処理苦情	2	72
6	1. 10	富士・東部林務環境事務所	水質汚濁	白色付着物	1	1
7	1. 17	環境整備課	廃棄物	廃棄物処理苦情	2	62
8	2. 13	中北林務環境事務所	水質汚濁	河川汚濁	1	4
9	3. 12	文部科学省	環境放射能	核実験対応モニタリング	20	1288
合 計					35	1617



論文抄録および学会発表

論文抄録

吉澤 一家、堀内雅人、佐々木裕也、高橋 一孝、山崎
修平、戸沢一宏、宮崎 淳一、芹澤如比古

生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究
山梨県総合理工学研究機構研究報告書, 7, 63-74(2012)

環境負荷が少なく、エネルギー消費量が少ない生態工
学的方法が、水質改善方法として湖沼・河川に用いられ
ている。本研究ではより多様な水域で応用可能にするた
めの手法を確立するとともに、水生植物の供給から、再

利用にいたる一連のプロセスを確立することを目的とし
て、水槽内での植物栽培試験、都市公園内の池において
沈水植物の植栽及びタテボシガイの飼育等の野外実験を
行なった。その結果、植物及び二枚貝に対する、魚類や
鳥類などの既存の生物による食害の影響は予想以上に大
きいこと、タテボシガイは水温が30℃を超える可能性が
ある池等でも水質浄化に利用可能であること、水生植物
の利用方法としては緑肥として用いることが可能なこと
などが判明した。

学会発表

1) 小泉美樹、風間大吾、小林浩
山梨県産食品中の天然放射性核種 (Pb, Bi) の濃度状
況
(第104回日本食品衛生学会学術講演会,岡山市
,2012.9.21)

2) 大沼正行、三橋加世子
山梨県におけるノロウイルスG₁,G₂ の混合感染事例
について
(地方衛生研究所全国協議会第27回関東甲信静支部ウ
イルス研究部会,山梨県,2012.9.27)

3) 三橋加世子、大沼正行
山梨県における麻しん症例について
(地方衛生研究所全国協議会第27回関東甲信静支部ウ
イルス研究部会,山梨県,2012.9.28)

4) 日野原裕美、堀内雅人
コモチカワツボの生息地の環境調査

(平成24年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専
門部会,埼玉県,2012.11.1)

5) 高橋史恵
甲府および周辺での蚊類の生息調査
(第24回日本環境動物昆虫学会,名古屋市,
2012.11.17)

6) 小田切幸次、小林浩、松本愛美、葉袋ゆい
山梨県における飲用水中の自然放射性核種と水質の地
域的特徴
(第49回全国衛生化学技術協議会年会,香川県,
2012.11.22)

7) 風間大吾、矢澤彩、小泉美樹、矢崎礼子、小林浩
食品中残留農薬一斉分析法の妥当性評価について
(第49回全国衛生化学技術協議会年会,香川県,
2012.11.22)

- 8) 三橋加世子、大沼正行
麻しん疑い症例からのウイルス検出状況
(平成24年度山梨県公衆衛生発表会, 中央市, 2013.2.7)
- 9) 松本愛美、葉袋ゆい、小田切幸次、小林浩
県内水道水の無機物質濃度の状況とその特徴
(平成24年度山梨県公衆衛生発表会, 中央市, 2013.2.7)
- 10) 柳本恵太、植松香星
2012年に山梨県内で発生したウエルシュ菌食中毒4事例
(地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第25回細菌研究部会, 神奈川県, 2013.2.7)
- 11) 吉澤一家、堀内雅人、佐々木裕也、高橋一孝、山崎修平、戸沢一宏、宮崎淳一、芹澤如比古
生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究
(総合理工学研究機構研究発表会, 甲府市, 2013.2.14)
- 12) 小泉美樹、矢澤彩、風間大吾、矢崎礼子、小林浩
流通食品中の自然放射性核種の濃度状況
(平成24年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会, 宇都宮市, 2013.2.15)